



平塚運一 《雪のニコライ堂》 1930年 島根県立美術館蔵 ©Estate of Unichi HIRATSUKA & JASPAR, Tokyo, 2021 E4405

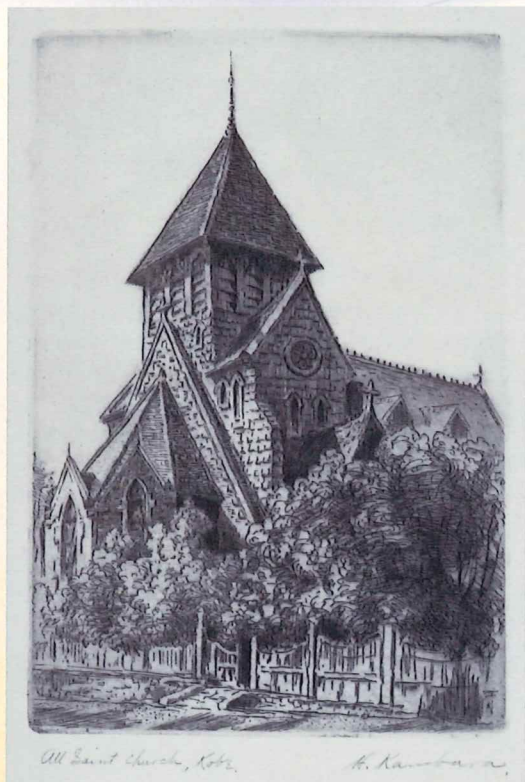
特別展

海を渡った版画家たち

～平塚運一と神原 浩～

主催／神戸ゆかりの美術館、神戸新聞社

特別協力／島根県立美術館、神戸市立博物館



神原 浩 《オール・セイント・チャーチ 神戸》 1930年代 当館蔵
(2022年2月22日から3月27日まで展示)

2022年

1月15日 土 ～

3月27日 日

(会期中、一部展示替します)

休館日／毎週月曜日(祝日は開館)、2022年3月22日(火)
開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料／一般800円(600円)、大学生400円(300円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金 ※神戸市居住の65歳以上の方は一般料金の半額
※小磯記念美術館、神戸ファッション美術館の入館券(半券)をお持ちの方、割引
※館内では新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。

神戸ゆかりの美術館

KOBE ARTISTS MUSEUM

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 TEL.078-858-1520
<https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

海を渡った版画家たち

平塚運一と神原浩



平塚運一 《東京震災跡風景 築地(聖留加病院焼址)》 1923年
木版色摺・紙 島根県立美術館蔵

©Estate of Unichi HIRATSUKA & JASPAR, Tokyo, 2021 E4405



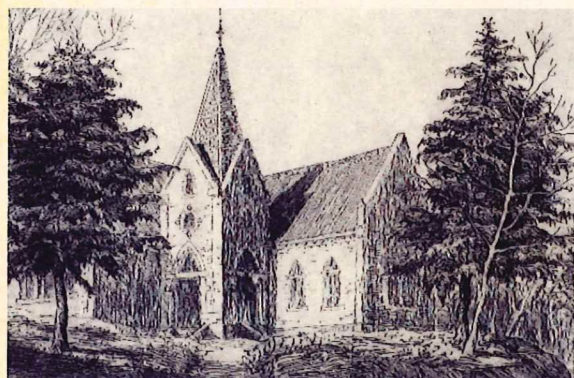
平塚運一 《斑鳩寺初秋》 1942年
木版・紙 島根県立美術館蔵



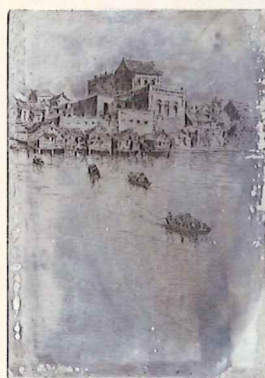
神原浩 《南仏風景》 1922年 油彩・キャンバス 当館蔵



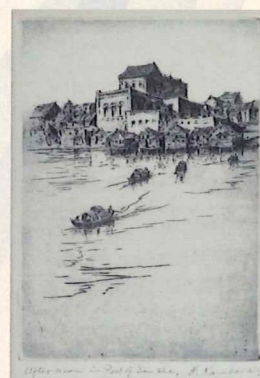
神原浩 《神戸・京橋》 1932年 エッチング・紙 神戸市立博物館蔵
(2022年1月15日から2月20日まで展示)



神原浩 《礼拝堂(原田の森)》 1930年代
エッチング・紙 関西学院学院史編集室蔵
(2022年2月22日から3月27日まで展示)



神原浩 《三亜港の午後(海南島)》 1941年
原版 神戸市立博物館蔵
(2022年1月15日から2月20日まで展示)

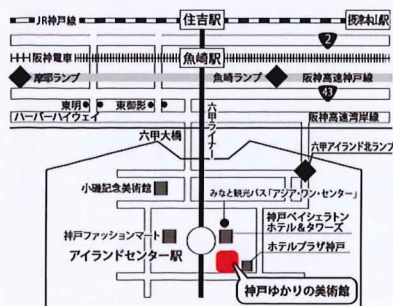


人生の一時期に海外と縁の深かった創作版画家の二人展です。島根県松江市出身の木版画家・平塚運一(1895～1997)は、石井柏亭との出会いを機に木版の道に進みました。1935年に東京美術学校(現・東京藝術大学)で版画教室(臨時)が開講されると木版を教え、創作版の普及に尽力しました。戦後、アメリカへ渡り、晩年の33年間を同地で家族と暮らし、旺盛な制作活動と教育普及を行いました。99歳で帰国し、102歳の天寿を全うしました。島根県立美術館のコレクションより92点の代表作を紹介します(作品はすべて通期展示)。

神戸市出身の神原浩(1892～1970)は、関西学院高等学部商科を経て、

キューバ、フランスなど長期間海外で美術を学びました。帰国後、神戸女学院と母校で教鞭を執りました。川西 英らが活躍した神戸の創作版画グループ・三紅会に1935年より参加しています。建築物を題材に好んでエッチングにしました。初公開の油彩画(滞欧作)や、近年に遺族から神戸市へ寄贈された版画を中心に約140点を紹介します。一部は、原版と版画作品を対照展示する予定で、版を見ることができる貴重な機会です。

平塚の力強い木版の線、ジंक版に刻まれた神原の緻密な表現世界を堪能してください。



神戸ゆかりの美術館 KOBÉ ARTISTS MUSEUM

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1

TEL.078-858-1520

<https://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

アクセス

- JR「住吉駅」、阪神「魚崎駅」のりかえ、六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ
- 阪急「御影駅」のりかえ、みなと観光バス「阪急御影駅南」バス停から「アジアワンセンター」下車南へ徒歩3分
- お車の方は美術館隣接の神戸ファッションプラザ駐車場(1日最大550円)をご利用ください。
- 阪神高速湾岸線「六甲アイランド北」ランプより約3分
- 阪神高速神戸線「魚崎」「摩耶」ランプより約10分